



さい帯血バンクNow

第17号

<http://www.j-cord.gr.jp/>

初N
のW
改役
選員

新会長に鎌田副会長 副会長は中林、正岡氏

日本さい帯血バンクネットワーク(NW)の通常総会が3月26日、東京都内で開催されました。新年度の事業計画と予算の審議とともに、ネットワーク設立以来、初めての役員改選が行われて、齋藤英彦前会長に代わって鎌田薫新会長をはじめとする新執行部が発足しました。
= 2面に鎌田会長あいさつ



鎌田 薫氏



正岡 徹氏



中林正雄氏



横山莊司氏



有田美智世氏



齋藤英彦氏



草刈 隆氏

今回の総会の大きな議題の一つは役員の出選でした。日本さい帯血バンクネットワークの会則には役員任期は、1期2年で連続して2期までとの規定があるため、新年度からは役員を全員(会長、副会長、監事)選出し直すことになりました。役員の出選は事前に総会を構成する正会員の中から推薦された候補者を投票で選出しました。その結果、会長には鎌田薫前副会長(早稲田大学法学

部教授)が、副会長には正岡徹氏(京阪さい帯血バンク代表)と産科分野の中林正雄氏(愛育病院院長)とが選出されました。また、監事には全会一致で横山莊司氏(税理士)と有田美智世氏(日本さい帯血バンク支援ボランティアの会代表)が選ばれました。

さらに、事業運営委員と事業評価委員も全面的に見直しが行われて、委員の選任が行われました。事業運

営委員には今回23名が選任されましたが、このうち新任は7名です。また、事業評価委員は24名が選任となりましたが、新しい顔ぶれが10名と大幅な変更となりました。なお、両委員会の委員長は互選により選出することになっていますが、4月25日に開催された事業運営委員会では、野村正満氏が再選され、引き続き委員長を務めることになりました。また、事業評価委員会は6月に開催の今年度第1回委員会で委員長が互選されることとなります。

また、新設された「顧問」についても協議が行われ、齋藤英彦氏(前会長)と草刈隆氏(前事務局長)が総会で推薦され、就任しました。

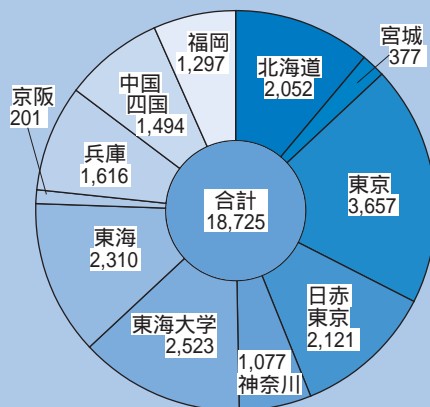
年間保存3300個に

総会における重要審議事項の事業計画は、今年度は国庫補助金などの関連から3300個のさい帯血を保存することになりました。予算は総額で6億3857万円と昨年度とほぼ同規模になっています。このうち、ほとんどは各さい帯血バンクの経費として5億6342万円が拠出されます。

各バンクの移植(供給)数

バンク名	~03年度	04年度	合計
北海道	283(294)	17(14)	300(308)
宮城	6(6)	0(0)	6(6)
東京	267(275)	7(5)	274(280)
日赤東京	184(193)	9(8)	193(201)
神奈川	84(87)	2(3)	86(90)
東海大学	241(260)	24(19)	265(279)
東海	199(202)	3(3)	202(205)
京阪	6(6)	0(1)	6(7)
兵庫	237(249)	10(9)	247(258)
中国四国	54(55)	4(6)	58(61)
福岡	38(42)	1(0)	39(42)
合計	1599(1669)	77(68)	1676(1737)

保存さい帯血の公開数



【注】 表とグラフのデータは、2004年4月末現在。

表の数字はカッコ外が移植数、カッコ内が供給数。

移植数は使用数であり、複数さい帯血同時移植(2本のさい帯血を同時に移植)が9例行われているため、累積実施移植数は1667例。

複数さい帯血同時移植は、02年度3月、03年度4月、5月、7月、10月、2月、04年度4月に実施。

永続性ある社会システム確立を

課題へ適切に対処

———会長・鎌田 薫

日本さい帯血バンクネットワークは、創立から4年半を経過し、会則の定めに従い、本年4月1日をもって創立以来の役員全員が交代しなければならぬこととなりました。

医療の発展に寄与

草創期のさまざまな困難を克服して、公的さい帯血バンク事業をわが国の造血幹細胞移植医療に欠かすことのできない存在として確立させることができたのは、各バンク関係者のみならず、齋藤英彦前会長をはじめとする役員、各種委員会の委員、事務局の皆さまの献身的な努力と、日本赤十字社、協力産科病院、移植医療機関、ボランティア団体など多くの方々温かいご支援によるものと深く感謝いたしております。

新しい執行部の重責を担うことになりました私たちも、前執行部の基本姿勢を踏襲し、何よりも患者の利益を最優先としつつ、さい帯血バンク事業の透明性と公正さを確保することにより、造血幹細胞移植医療の発展に寄与すべく誠心誠意努力して参りますので、引き続き、皆さま方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

これまでに保存・公開されたさい帯血の総数は、既に設立当初の目標であった20,000個を超えました。さい

帯血バンクの提供したさい帯血の移植数も間もなく2,000例に届こうとしています。ネットワークに参加する11の地域バンクの事業運営も極めて順調に発展し、人の成長に例えるならば、幼少年期から青年期へとさしかかろうとしているように思います。

さい帯血バンク事業が、その創設にご尽力された皆さまの熱い情熱と献身的な努力に支えられてきたことには異論の余地がありませんが、骨髄バンクとともに造血幹細胞移植に不可欠の存在として認知されるに至った現時点においては、創設者の資質と自己犠牲の精神だけに依拠し続けることは許されず、構成員が第2世代・第3世代に交代したとしてもなおその水準を維持・発展させることのできる永続性をもった社会的なシステムとして確立することが要請されているといえるでしょう。

自律的財政運営へ

財政面においても、診療報酬改定により、本年4月から、さい帯血移植の実施に必要な費用の一部が医療保険でまかなわれることになりました。今後の展開はまだ不透明ではありますが、補助金による財政支援システムから医療保険を基盤とする自律的財政運営システムに切り替えられていく可能性は高いものと思われ

ます。そうなりますと、さい帯血について、血液製剤と同じように、薬事法の適用対象にするという動きも具体化してくるかもしれません。現時点で、さい帯血について薬事法上の製造承認の対象とすることがさい帯血移植医療の発展にとって有益か否かは、さらに慎重に検討する必要がありますが、遡及調査・追跡調査を含めて有害事象が生じた場合の対応などについては、薬事法が規定している内容に匹敵する体制を整備しておくことは、ドナーと患者の安全の確保という観点からも、必要かつ有益なものと考えます。

そのほか、これまでのさい帯血移植の成績の整理・分析・公表、骨髄バンクと共同化を図りうる事業に関する連携の強化、国際化への対応など、既に前執行部の下で開始されている作業を継続・発展させることなど、早急に実現すべき課題は数多く存在します。

協力と支援を期待

私たちは、これらさまざまな課題について、できるだけ早く適切に対処していこうと考えています。そのいずれをとっても、バンク関係者のみならず、ドナーおよび患者ならびにそのご家族、産科病院、移植医療機関、ボランティア団体その他幅広い皆さまのご協力とご支援なしには実現することができません。

皆さま方の温かいご支援・ご協力を重ねてお願いして、会長就任の挨拶に代えさせていただきます。



すこやかに、幸せに。

明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療機器を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。



ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

採取病院訪問記① 福岡県赤十字血液センター臍帯血バンク

さい帯血バンクでは全国 89施設の産科病院で、さい帯血の採取を行っています。さい帯血は移植治療に使用するので、厳密な基準があります。安全確保のため、処理と保存には無菌管理が必要で、さい帯血の採取には厳重な管理を行っています。そのため、全国のさい帯血バンクでは近隣の産科病院と契約を結んでいます。本誌では今号から連載で、各地のさい帯血採取病院を訪ねてご紹介します。

お産は「音と光」でリラックス 目の前の水槽に泳ぐ魚

福岡のさい帯血バンクでは9つの産科病院がさい帯血採取施設になっています。福岡市内が5病院、北九州市に2つ、あとは福岡市に隣接する那珂川町と久留米市に1つずつです。

□少しずつ増える

はじめは各産科病院に採取の協力をお願いに行ったものの、どこも忙しいためになかなか引き受けてくれる病院がなかったそうですが、最初に採取病院を引き受けてくれたのが福岡通信病院です。その後、小児科でたくさんさい帯血移植を行っている移植病院として有名な浜の町病院が、もらうばかりではなく協力したいと採取病院になるなど、次第に採取病院が増えていきました。

現在、採取数が一番多い病院は北九州市のエンゼル病院です。この病院は出産が専門の病院で、正常分娩がほとんどです。総合病院の産科は異常分娩も多く、さい帯血の採取にはお産の多い専門病院であるほうが適しているのかもしれませんが。

□徹底した気配り

ところで、福岡のさい帯血バンクには、福岡市内に香椎、西新、姪浜と3つの出産専門の病院で採取を行っている渡辺クリニックがあります。そのひとつ、香椎の分娩室(写真)にお邪魔しました。分娩台で妊婦さんの位置の正面には大きな水槽があって、魚が泳いでいます。出産時には明かりを落として、気持ちを落ち着



かせる音楽が流れます。また天井には星の光がまたたきます。まさに音と光で緊張する出産の瞬間を和らげようという気配りが徹底しています。

□年間出産1800件



病院を運営する渡辺忠義先生によると「普通、分娩室というと無機質な手術室のようなところですが、こ

こでは心身ともにリラックスしてお産に臨んでもらっています」ということです。しかし、水槽のことに関しては「管理が大変で……」とのことで、水槽があるのは香椎だけだそうです。

渡辺クリニックでは妊婦さんからさい帯血の提供がしたい、と要望があったことがきっかけでさい帯血バ

ンクに申し出て6年前に採取病院になりました。3つの病院で年間1800件ほどのお産がある中で、さい帯血については妊婦さんたちのマザークラスで説明をして、半数以上の採取が行われているそうです。そのうち3分の1は採血量などが基準に至らずに廃棄されてしまいます。

□情報交換の場を

渡辺先生からさい帯血バンクへの要望もありました。「採取病院としては、採血の方法など改善すべき点があると思うのでこれからも努力したい。そのためには採取病院相互での情報交換や懇親の場を作ってもらいたい。誰もが忙しいと思うが、ネットで掲示板のようなものを設けて話し合うこともできるのではないかと語っていました。こうした現場の声に耳を傾けて、今後の運営に役立っていくことが重要です。

検討会設置し対策急ぐ

さい帯血由来で
AMLなど4例

日本さい帯血バンクネットワークにこの4月、移植病院からある症例の報告がありました。その内容は、さい帯血移植をした成人T細胞性白血病リンパ腫の患者さんが、急性骨髄性白血病（AML）を発症したことで調べたところ、その白血病細胞は移植したさい帯血由来のものであることがわかった、というものです。

ネットワークでは、緊急に各さい帯血バンクが把握している事例の調査を行ったところ、疑わしいものを

含めて同種の事例がほかに3例あったことがわかりました。なお、そのさい帯血を提供した赤ちゃんは健康に成長していることもわかっていません。

同様の症例はすでに骨髄移植でも報告例がありますが、さい帯血移植では初めての事例です。これは、移植したさい帯血の細胞が厳しい治療を行う患者さんの体内で変異したものとみることができます。したがって、さい帯血を提供したドナーが発

症するとは限りません。

日本さい帯血バンクネットワークでは4月25日の事業運営委員会での問題の協議を行いました。その結果、ドナーへの告知を含めたさい帯血提供に関するインフォームドコンセントのあり方、科学的解明の調査研究を学会等に依頼する問題、移植医療機関への通知、ドナー情報の管理体制などについて、検討会を設置して早急に対策を講ずることになりました。

あんな委員会 こんな部会⑥ どんと一挙に

これまでに、このコラムでは日本さい帯血バンクネットワークに設置された様々な委員会をご紹介してきました。これまでに取り上げたのは、技術部会、適応判定委員会、事業評価委員会、事業運営委員会、危機管理マニュアル作成小委員会の5つです。今回は最後として、その他の委員会をまとめてご紹介します。

日本さい帯血バンクネットワークには大きな委員会として事業運営委員会と事業評価委員会の2つがあります。その他の委員会は、事業評価委員会の中に置かれた小委員会という位置づけです。しかし、今年度からは、事業評価委員会の中に評価企画委員会が設置されて、活動を始めることになっています。

【広報部会】常設の小委員会として最初にできたのが広報部会です。主な仕事は本誌『さい帯血バンクNow』の編集と発行ですが、昨年の1000例突破記念シンポジウムの企画実施など、当ネットワークの広報活動を全面的に担当しています。

【技術交流会】技術部会がさい帯血バンクの技術的基準を検討するのに対して、技術交流会はさい帯血の保存・調製・検査など、主に技術面の実務で全国に11あるさい帯血バンクの担当者がともにスキルアップするために常設の小委員会として置かれました。こうして、安全なさい帯血を提供するための努力をしています。

【移植データ管理小委員会】さい帯血移植を行うには、移植病院から移植実施後に定期的にそのデータを提出してもらうことを条件に、さい帯血バンクはさい帯血を提供しています。しかし、その報告は各さい帯血バンクに行われるため、全体的な移植データの管理はまだ整理がされていない状況です。このため、移植データ管理委員会はそのシステムを構築して運営する常設小委員会です。

【国際協力体制の方向性に関する小委員会】さい帯血の海外への提供などは、現在各バンクの個別対応で行われています。国際協力はさい帯血バンクの大きな課題の一つになっています。どのような形で国際協力を進めるべきか、真剣

な検討が続いています。

【会計処理に関する検討会】日本さい帯血バンクネットワークを構成する11のさい帯血バンクは、同じ事業を行ってはいますが、組織体としては設置母体により様々です。大学あり、財団法人あり、NPO法人あり、任意団体ありといった状況です。したがって、会計システムもまちまちですが、明朗な会計処理を行うためネットワークでは検討会を置いています。

【プライベートバンク対策小委員会】最近、営利目的でさい帯血の私的保存を行う企業（プライベートバンク）が営業を始めるようになりました。こうした企業活動は、公的な私たちのさい帯血バンク活動にも影響が出ています。この委員会ではプライベートバンクに対する姿勢を検討するとともに、さい帯血の私的保存についても論議しています。

【バンク連絡会】日本さい帯血バンクネットワークを構成する11のさい帯血バンクが様々な情報交換を行う組織です。最近では内容的に特化した小委員会があるために、あまり開催されていませんが、必要が生じた時にはすぐに開催できるようにしています。

<おわり>

ご寄付をいただきました

温かいお心ありがとうございます。
遠矢昭人様（鹿児島県） 50,000円

5周年記念事業協賛金

河合祐子様（岐阜県） 10,000円
石川傳彦左工門様（東京都） 10,000円

及川吞吉様（埼玉県） 10,000円
中谷佳生様（埼玉県） 10,000円

善意をお待ちしています